

インフルエンザ予防接種の Q&A

Q.1: ワクチンは1回接種でよいか？



13歳以上の方は、1回接種が原則

ワクチンの添付文書には「13歳以上のものは1回または2回注射」と記載されていますが、健康な成人の方や基礎疾患（慢性疾患）のある方を対象に行われた研究で、インフルエンザワクチン0.5mLの1回接種は、2回接種と同等の抗体価^(注)上昇が得られるとされました¹⁾²⁾。免疫抑制剤・抗がん剤・ステロイド等、免疫を抑える薬剤を使用中の方やその同居者、受験生自身や受験生がいる同居者等は、2回接種しておくのも一案です。

この冬は新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスが同時流行する可能性があります。インフルエンザに対する免疫を、より保有しておくために、今シーズンは2回接種を行っておくことも一案と思われます。

13歳未満の方は、2回接種

1回接種後よりも2回接種後の方がより高い抗体価上昇が得られるため、日本ではインフルエンザワクチンの接種量及び接種回数は以下次のとおりとなっています。なお、1回目の接種時に12歳で2回目の接種時に13歳になっていた場合は、12歳として考えて2回目の接種を行います。

- (1) 6カ月以上 3歳未満の方 1回 0.25mL 2回接種
- (2) 3歳以上 13歳未満の方 1回 0.5mL 2回接種

(注) 抗体価とは、抗原と反応できる抗体の量であり、ウイルス感染やワクチン接種により、体内で産生された抗体の量を測定することで得られる値のことです。

1) 平成23年度 厚生労働科学研究費補助金 新興インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究（研究代表者：廣田良夫（大阪市立大学））」

2) 平成28年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「ワクチンの有効性・安全性評価とVPD（vaccine preventable diseases）対策への適用に関する分析疫学研究（研究代表者：廣田良夫（保健医療経営大学））」

Q.2: ワクチンの効果（有効性）について

「何に対する効果か？」を理解・整理しておくことが大事です。

「感染」： 体の中の侵入を許し、細胞内に入りこまれること

「発病」： 発熱などの症状が出現すること

「重症化」： 肺炎や脳症等を生じ、入院加療が必要となったり死亡すること

- ・「感染」を完全に抑える働きはありません。
- ・「発病」を抑える効果が一定程度認められています。
- ・最も大きな効果は「重症化」を予防することです。

日本におけるインフルエンザワクチンの効果

対象年齢	発症予防率 (%)	死亡低下率 (%)	調査シーズン
1 歳未満 ¹⁾	不明		1999-2002
1 歳以上～6 歳未満 ¹⁾	20～30		2000/2001,2001/2002
6 歳未満 ²⁾	60		2015/2016
0～15 歳 ³⁾	(1 回接種) 68 (2 回接種) 85		2001/2002
16～64 歳 ³⁾	(1 回接種) 55 (2 回接種) 82		2001/2002
65 歳以上 (健全人) ⁴⁾	45	80	1997-1999
65 歳以上 (高齢者施設に入所中) ⁵⁾	34～55	82	1997-1999

1)神谷 齋・加地正朗, 他: 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)、総合研究報告書 (平成 12 年～14 年度), 乳幼児に対するインフルエンザワクチンの効果に対する研究

2)廣田良夫ほか: 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) (平成 28 年度), ワクチンの有効性・安全性評価と VPD (vaccine preventable diseases) 対策への適用に関する分析疫学研究

3)Kawai N et al. A prospective, internet based study of the effectiveness and safety of influenza vaccination in the 2001-2002 influenza season. Vaccine 21:4507-13, 2003.

4) 神谷 齋ほか: 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)、総合研究報告書 (平成 9 年～11 年度), インフルエンザ ワクチンの効果に関する研究]

5) 神谷 齋ほか: 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業), 総合研究報告書 (平成 11 年度)、インフルエンザワクチンの効果に関する研究

Q.3: 昨年ワクチンの接種を受けたが今年も受けた方がよいか？

インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行することが予測されると判断されたウイルスを用いて製造されており、シーズンごとに異なった株が使用されています。今年度も昨年度とは異なった株が使用されています。

今年もインフルエンザワクチン接種をして頂く方が良い、と考えられます。

Q.4: インフルエンザワクチンの接種はいつ頃受けるのがよいか？

接種から効果が現れるまで通常約2週間程度かかり、約5か月間その効果が持続するとされています。インフルエンザは12月～4月頃に流行し、例年1月末から3月上旬に流行のピークを迎えるため、12月上旬までに接種を完了することが望ましいと考えられます。

Q.5: ワクチンの供給量は確保されているか？

今冬（2020年度）のインフルエンザシーズンのワクチンの製造量は、2016年度以降、最も多い供給量となる最大約6356万回分となる予定です（2018年度は5,260万回分、2019年度は5,902万回分）。日本の人口は1億2,593万人（2020年8月1日現在：人口推計「総務省統計局」）で、ワクチン供給量は日本国民の約半分となり、全員分には足りない計算となってしまいますが、日本では例年のインフルエンザワクチン接種率は2004年以降約50%と横ばいで推移していましたが、今冬は新型コロナウイルス感染症の影響による接種者増加を見込むと、ギリギリ足りるかといったところです。

供給量は当初数が限られ、徐々に増えていく見通しです。

Q.6: 他のワクチンと同時接種ができるか？

同時接種できます。

肺炎球菌ワクチン・帯状疱疹ワクチン・麻疹風疹混合ワクチン・おたふくワクチン・日本脳炎ワクチン等、ほとんどのワクチンと同時接種ができます。

Q.7: 2回接種する場合、接種間隔はどのくらいがよいのか？

免疫効果を考慮すると4週間おくことが望ましいとされています。

史祥会 房総メディカルクリニック
千葉県木更津市ほたる野3-24-19
年中無休（年末年始除く）

0438-72-9916（内科受付）

診療受付時間

午前 9:00～12:00

午後 14:30～17:30